

熊取町遺跡群発掘調査概要報告書・XIX

平成17年3月

熊取町教育委員会

はしがき

古代から熊取野とよばれた本町域は現在まで変わることなく「熊取」として独立した地域を保持し、恵まれた自然と貴重な文化遺産を今日に伝える町であります。

町内には重要文化財中家住宅をはじめ有数の文化財が知られていますが、他に埋蔵文化財包蔵地として45ヵ所を数える遺跡があるなど、町内全域に遺構や遺物が埋蔵されています。

熊取町では昭和60年度から国庫補助金等を受けて発掘調査を実施するようになり、これまでに貴重な資料を得ることができました。

本書は平成16年度国庫補助事業として実施した発掘調査の実績報告書として作成したものです。今後多方面においてご活用いただけるよう願っております。

最後になりましたが、本年度現地での発掘調査にあたって御協力をいただきました土地所有者ならびに関係者各位に対しましてここで厚くお礼申し上げます。

平成17年3月

熊取町教育委員会
教育長 甲田 義輝

例　　言

1. 本書は、平成16年度に国庫補助金を受けて、熊取町教育委員会生涯学習推進課文化財係が実施した熊取町遺跡群における発掘調査概要報告書である。
2. 調査は、熊取町教育委員会生涯学習推進課文化財係考古学技師前川 淳を担当者として、平成16年4月1日に着手し、平成17年3月31日をもって終了した。
確認調査では、調査区を写真撮影し、調査区位置図（平面図）、調査区壁面図を作成し記録にとどめた。また記録作業後は必ず埋め戻して現場作業を完了した。
3. 本書は、報告書の作成の都合上、平成16年4月1日から平成16年12月29日までの発掘調査成果及び、平成15年度事業で昨年「熊取町埋蔵文化財調査報告第44集」で報告できなかった平成16年1月5日から同年3月31日までの発掘調査成果1件を掲載する。
4. 本書における図面の標高は、T.P.（東京湾平均潮位）を用いた。また方位は、地図以外については磁北を示すこととした。
5. 本書における図面の土色は、『新版標準土色帖』第10版（小山正忠・竹原秀雄編、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財團法人日本色彩研究所色票監修1990年度版）を用いて目視により比定した。
6. 本書の作成及び発掘現場での作業にあたって、下記の調査員・調査補助員・作業員の参加を得た。
　　関井澄子、前田公子、森田享子、山本恵子
7. 本書の執筆は熊取町教育委員会生涯学習推進課文化財係考古学技師前川淳が行った。

目 次

第1章 はじめに	4
第2章 地理的環境と周知の遺跡	
第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	4
第3節 周知の遺跡	6
第3章 調査成果の概要	
第1節 久保城跡03－3区の調査	8
第2節 久保A遺跡04－1区の調査	9
第3節 城ノ下遺跡04－1区の調査	11
第4章 まとめ	12

第1章 はじめに

平成16年度における、文化財保護法に基づく土木工事等による埋蔵文化財の発掘の届出・通知件数は21件（平成16年12月29日現在）であり、昨年の同時期は30件であった。

本書では平成16年度12月29日までに国庫補助事業として実施した久保A遺跡をはじめとする町内遺跡の調査2件、平成15年度事業で実施した久保城跡1件を合せた3件の発掘調査の成果について概要を報告する。

平成16年度国庫補助事業発掘調査一覧表

遺跡名	所在地	申請者名	申請面積	調査年月日
久保城跡03-3区	久保一丁目1630-2	森内 功	284.56m ²	平成16年2月19日
久保A遺跡04-1区	小谷南一丁目113-1の一部	山下 克彦	379.18m ²	平成16年4月5日
城ノ下遺跡04-1区	小谷南一丁目145-1	原裕之・美由姫	368.71m ²	平成16年8月26日

第2章 地理的環境と周知の遺跡

第1節 地理的環境



熊取町の位置

熊取町は大阪府泉南地域の中央に位置し、貝塚市・泉佐野市の両市に囲まれた町である。町域は東西約4.8km、南北約7.8kmと南北に長い木の葉状を呈している。町域の総面積は約17.19km²を有する。地形による面積比を見ると、山地41%、丘陵24%、段丘23%、低地12%に区分され、山地・丘陵部が町域総面積の約3分の2を占めている。地域別に見ると、町南部においては、泉南地域の基本山地の和泉山地から派生する和泉丘陵とその縁辺部に発達する段丘部が多くを占めている。また北部では狭小ながらも河川の対岸に洪積地が形成されている。町域に水源を持つ河川は兩山川・和田川・大井出川・見出川の4水系が存在している。いずれも町南部の山間部を水源としており南部から北部へ向かって流下

し、泉佐野市を経て大阪湾に注ぎ込んでいる。本町が瀬戸内式気候区の東端に位置しているために年間降雨量が少量であることから、古くから町域一帯に多くの灌漑用の溜め池を目にすることができる。

第2節 歴史的環境

遺跡数は平成16年12月現在で45カ所を数えるようになっている。

縄文時代以前の遺構は発見されていないが、野田遺跡の所在する熊取町野川の町立中央小学校で縄文時代早期の有舌尖頭器と石鎌が検出されている。

弥生時代の遺跡も発見されていない。JR熊取駅のある大久保における駅前整備事業に伴う平成元年の発掘調査では畿内第V様式を示す土器が大量に検出され大久保E遺跡となつたが、その土器は古墳時代初頭の所産と考えられている。

古墳時代の遺跡として、町中央部の山の手台住宅に五門古墳と五門北古墳が記されているが、既に開発で消滅している。

飛鳥時代については、平成10年度の久保城跡98-1区の調査で複数の溝が検出され、その中から飛鳥第V様式といわれる土師器や須恵器を検出している。

奈良時代についてはこれまで東円寺跡（現野田遺跡）87-1区の調査で建物4棟と土壙、須恵器、土師器が検出されたのみにとどまっていたが、平成10年度に久保で須恵器や製塙土器等の土師器を含む3本の溝群、平成11年7月熊取町七山（七山東遺跡）で西暦750年以降の奈良時代を示す多くの須恵器が相次いで検出された。また小垣内においては、平成13年度の試掘調査で中世の土器とともに奈良期の須恵器破片が出土している。これらのことから熊取町全域は奈良時代には本格的に開発されていたものと考えられる。

平安時代については、野田の熊取町役場付近に想定されている東円寺の創建が、発掘調査で発見された軒瓦の比較考察から平安時代末とされている。また平成8年度には大久保から紺屋にかけての私立病院の発掘調査で黒色土器や須恵器、土師器が自然流路内から検出されている。

鎌倉時代以降中世に関しては、熊取町内の遺跡のほとんどが同時代を中心とした様相を示している。野田の野田遺跡、久保の久保城跡、大浦の大浦遺跡、紺屋の紺屋遺跡、七山の七山東遺跡では瓦器を豊富に含む包含層が存在しており、建物・溝といった遺構も検出されている。平成13年度には小垣内で幅10m程の溝跡（濠）が見つかり、第42番目の「小垣内西遺跡」となった。

戦国時代については和田の重要文化財来迎寺の新本堂建設工事の際、境内から多数の16世紀の土師器皿や瓦片が出土した。

江戸時代の特異な遺跡としては、五門の重要文化財中家住宅およびその周辺遺跡、大久保の重要文化財降井家の降井家屋敷跡がある。平成13年度の中家住宅東側隣接地での調査では、実に5,500破片の土師器皿や軒丸瓦片が出土した。

熊取町遺跡分布図



第3節 周知の遺跡

熊取町埋蔵文化財包蔵地一覧

番号	遺跡名	種類	時代	地目	立地	面積	主な成果等
1	降井家書院	建造物	室町～江戸	宅地	平地	4,000m ²	国指定重要文化財
2	中家住宅	建造物	室町～江戸	宅地	平地	4,500m ²	重文・江戸期から明治までの陶磁器等出土
3	東源寺本堂	寺院跡	鎌倉	宅地	丘陵腹	3,100m ²	重文・15～16世紀の陶磁器・土師器検出
4	池ノ谷遺跡	散布地	旧石器	水田	平地	62,300m ²	
5	中家住宅	建造物	江戸	宅地	平地	5,000m ²	
6	東円寺跡	寺院跡	平安～江戸	宅地	平地	48,000m ²	瓦・土器多数出土。寺院の形態は不明
7	城ノ下遺跡	城郭跡	室町	宅地	丘	61,800m ²	
8	成合寺遺跡	墓地	室町	河原地	丘陵腹	69,000m ²	14世紀代の600基以上の土塙墓群等検出
9	高藏寺城跡	城郭跡	室町	山林	山頂	34,800m ²	土壘・施切等の遺構を確認する
10	兩山城跡	城郭跡	鎌倉	山林	山頂	45,300m ²	月見ノ子・馬場・千賀敷の地名が残る
11	五門遺跡	散布地	古墳～江戸	宅地	丘陵	2,300m ²	土師器片等が検出される
12	五門北古墳	古墳	古墳	宅地	丘陵	1,900m ²	現在消滅
13	五門古墳	古墳	古墳	宅地	丘陵	1,500m ²	現在消滅
14	大浦中世墓地	墓地	室町	墓地	平地	18,400m ²	享徳四年(1445) 路の五輪塔地輪等出土
15	久保城跡	城郭跡	鎌倉	水田	平地	86,300m ²	飛鳥周の溝から須恵器・土師器、他瓦器多い
16	山ノ下城跡	城郭跡	鎌倉	七地	平地	6,800m ²	
17	大谷池遺跡	散布地	古墳～江戸	池	平地	51,400m ²	
18	祭名御所跡	祭祀跡	室町	山林	丘陵	6,300m ²	五門・組屋共同墓地
19	正法寺跡	寺院跡	鎌倉	宅地	丘陵	55,000m ²	
20	小垣内遺跡	寺院跡	江戸	道路	丘陵	7,000m ²	足沙門堂跡。現在消滅
21	金剛法寺跡	寺院跡	室町	宅地	平地	5,100m ²	大森神社神宮寺
22	鳥羽殿城跡	城郭跡	室町	山林	丘陵	72,600m ²	
23	墓ノ谷遺跡	寺院跡	室町	山林	丘陵腹	32,000m ²	
24	花成寺跡	寺院跡	室町	山林	丘陵	28,000m ²	
25	降井家屋敷跡	屋敷跡	室町～江戸	宅地	平地	12,000m ²	屋敷地を区画する溝や近世の陶磁器等出土
26	大久保A遺跡	散布地	江戸	宅地	平地	8,100m ²	
27	下高田遺跡	条里跡	鎌倉	田	平地	5,700m ²	
28	大久保B遺跡	集落跡	弥生～江戸	宅地	平地	47,800m ²	弥生末～古墳初期の遺物
29	堀屋遺跡	散布地	古墳～江戸	宅地	平地	22,400m ²	奈良～平安朝の河川跡検出
30	白地谷遺跡	散布地	室町～江戸	田	谷	129,600m ²	
31	大久保C遺跡	散布地	室町～江戸	宅地	平地	4,500m ²	
32	千石堀城跡	城郭跡	室町	山林	丘陵	1,000m ²	天正元年(1573～92)の築営案の城跡
33	口無池遺跡	散布地	平安～江戸	宅地	平地	11,200m ²	平安末～鎌倉初期の遺構、遺物
34	大久保D遺跡	散布地	鎌倉～江戸	宅地	平地	9,200m ²	
35	大浦遺跡	散布地	鎌倉～江戸	田	平地	4,900m ²	13～14世紀の瓦器等検出
36	久保A遺跡	散布地	鎌倉～江戸	宅地	平地	4,400m ²	建物跡、8～14世紀の土器
37	久保E遺跡	集落跡	弥生～江戸	宅地	平地	2,900m ²	弥生末～古墳初期の遺物多数
38	久保B遺跡	集落跡	鎌倉～江戸	宅地	平地	5,000m ²	13～14世紀の瓦器等検出
39	中家住宅周辺遺跡	集落跡	室町～江戸	宅地	平地	21,300m ²	近世の陶磁器多数
40	朝代北遺跡	散布地	鎌倉～室町	宅地	平地	60,000m ²	13～14世紀の瓦器等検出
41	七山東遺跡	散布地	奈良～室町	田	平地	80,000m ²	古代須恵器・土師器・瓦器等検出
42	小垣内西遺跡	集落跡	奈良～室町	宅地	平地	3,600m ²	古代須恵器・瓦器・瓦等検出
43	大久保F遺跡	集落跡	弥生～室町	七地	平地	1,436m ²	石鏃・平安頃の住跡等検出
44	野田遺跡	集落跡	編文～江戸	宅地	平地	250,000m ²	編文石器・古代～近世の集落
45	小垣内中遺跡	集落跡	奈良～室町	宅地	平地	3,500m ²	中世の集落

第3章 調査成果の概要

第1節 久保城跡03-3区の調査



久保城跡について

久保城跡は熊取町の中央部よりやや南東の熊取町久保に所在し、小字に「矢の倉」「的場」などが残されているため、中世の城館跡と考えられている遺跡であるが、これまでの発掘調査で城郭関連の遺構は一切発見されていない。平成10年8月には調査地点から160m程北西の町立東学童保育所の建設に伴う発掘調査（久保城跡98-1区）で、僅か77m²の調査区域から飛鳥期～奈良時代中期の土師器及び須恵器を多量に含む3本の溝が検出されている。

久保城跡03-3区の調査

調査地 久保1丁目1630-1

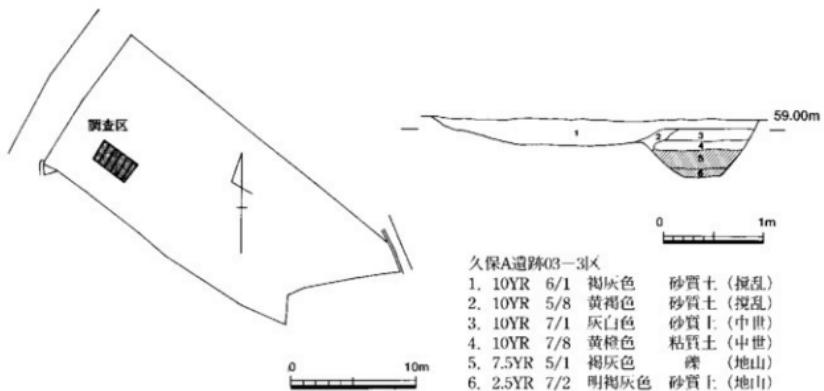
調査期間 平成16年2月19日

位置と環境

調査地点は久保城跡の中央から南西寄りにある。平成10年度に申請地の西側の個人住宅に伴う確認調査を実施したが、埋蔵文化財は検出されなかった。現在申請地の周辺は平坦であり、かつてより開発が容易だったと思われるが、現在の町道五門久保小谷線の北側ではこれまで建物等の遺構は確認されていない。これに対してこの町道の南側では中世の集落跡が頻繁に検出されている。

調査内容

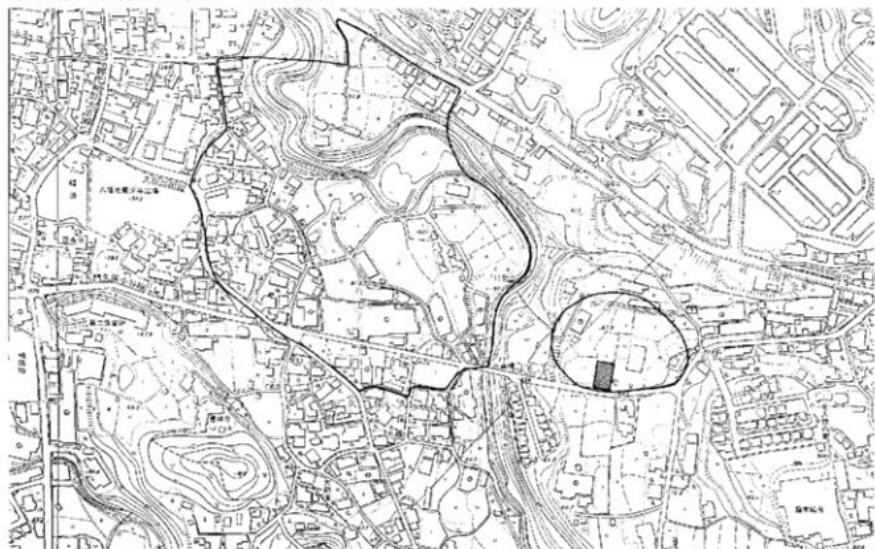
調査は機械掘削によって実施した。GL-0.5m程で褐灰色砂礫の地山⑤に達する。直上には中世頃の所産と考えられる層が2層存在する。



調査結果

調査地点にはかつて工場があり、その所産と思われる大きな搅乱が見られる。中世期と見られる層からは遺物の出土ではなく、地山面上に遺構はない。

第2節 久保A遺跡04-1区の調査



久保A遺跡について

久保A遺跡は平成2年の試掘調査で中世の包含層が確認されて登録された範囲の非常に狭い遺跡である。平成12年町道小谷穴釜線の新設工事に伴う発掘調査を実施する機会に恵まれ、遺物を伴う14世紀代の掘立て柱住居跡1棟を確認する成果を上げた（久保A遺跡00-1区）。この建物を営んだのは野田に旧東円寺が建立され繁栄したとされる13世紀代ではなく、寺院が焼失した後の14世紀代になってからのことである。またその時の住居跡には明瞭な焼土が残されており、或いは南北朝の戦乱によるものかとも思える。またこの遺跡の東側は14世紀代に大内氏の被官が営んだとされる高蔵寺城跡との伝承が残る高倉山となっており、貝塚側から熊取への玄関口になっている。

久保A遺跡04-1区の調査

調査地 小谷南113-1の一部

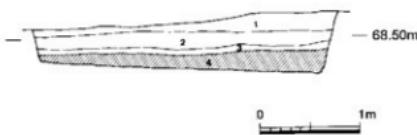
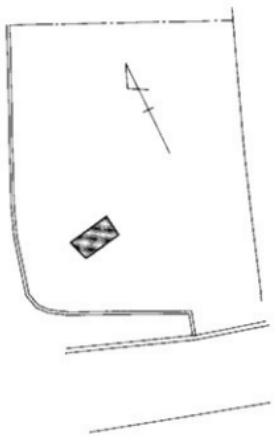
調査期間 平成16年4月5日

位置と環境

調査地点は平成12年度に町道小谷穴釜線の新設工事に伴って発掘調査をした久保A遺跡00-1区の西側約100m付近である。

調査内容

機械掘削による調査を実施した。GL下-0.4m程度で黄褐色砂質上の地山④を検出できるが、その上の3層①②③はいずれも中世-近世の耕作土であると考えられる。調査ではこれらの層からは一切遺物は検出できなかった。自然に形成されたと考えられる④層には砂と丸い小さな礫が多く、西の見出川へ向かって下り傾斜を見せる河岸地形上に調査地点が存在していることを示すものと考えられる。中世の建物や多くの遺物が出土した平成12年の久保A遺跡00-1区に近い地点であるが、遺構や遺物は存在しないものと考えられる。

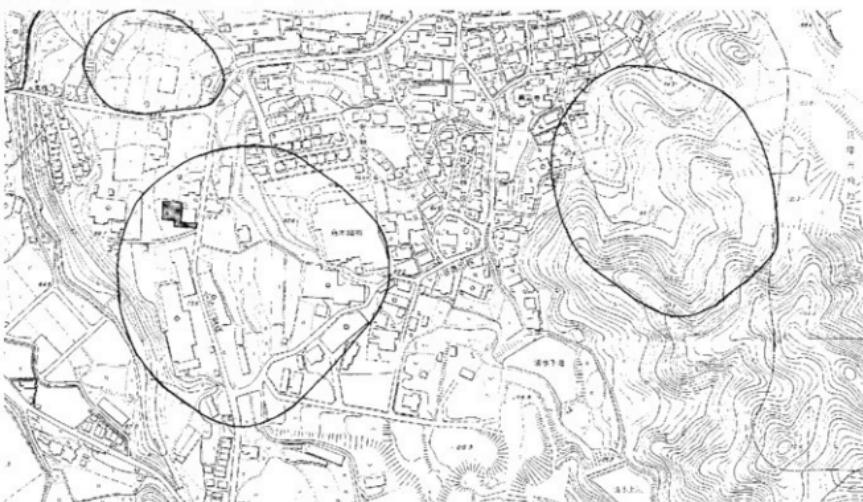


久保A遺跡04-1区
1. 7.5YR 6/8 穗色 砂質土(床土)
2. 7.5YR 6/2 灰褐色 砂質土(耕作土)
3. 10YR 7/8 黄褐色 砂質土(床土)
4. 10YR 6/2 灰褐色 砂質土(地山)

調査結果

確認調査の結果、中世の土層が存在することがわかったが、00-1区のような建物等が分布している様子はなかった。

第3節 城ノ下遺跡04-1区の調査



城ノ下遺跡について

城ノ下遺跡は熊取町の東部、貝塚市の西端の水間と境界を接する低丘陵地帯に位置する。この地域は熊取の東の玄関になっており、この地域にある小谷集落は貝塚市水間との共通性が感じられる。小谷地区の歴史は本町でも相当古いらしく、室町時代には大内義弘の配下の八木野内匠介が高倉山に高藏寺城を築き在城したとされ、岳山氏に攻められ落城したと言われている。集落内には八木野氏が自刃した古井戸が「辻の井」の井戸として今も残されている。城ノ下遺跡は高藏寺城があったとされる高倉山の西麓一帯にあり、小字名に城関連の名前が残る地域である。遺跡の範囲は分布調査の結果によるものである。

過去の調査では目立った成果は見られない。平成10年度の個人住宅における小範囲の確認調査で中世の包含層が確認されている。

城ノ下遺跡04-1区の調査

調査地 小谷南1丁目145-1、206の一部

調査期間 平成16年8月26日

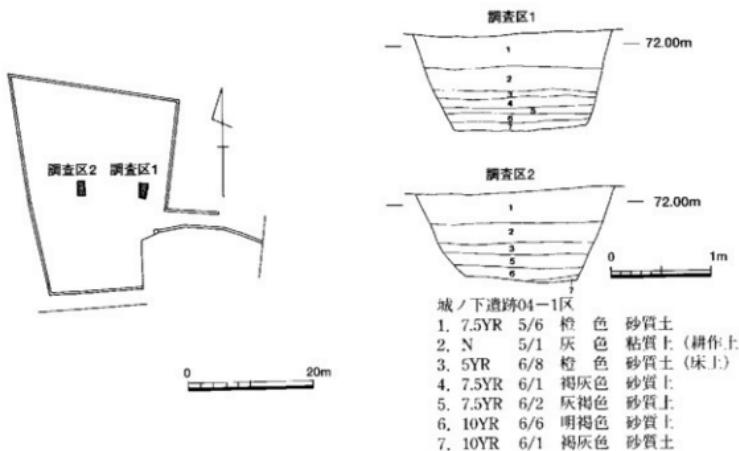
位置と環境

調査地点は城ノ下遺跡の北西端部に位置し、現在の周囲には住宅がないために、一様に

平坦な土地が広がる景観を見せているが、実際は申請地の100m西側に見出川が南北方向に流れしており、付近はこの川に向かって下る傾斜地である。逆に申請地を東側に離れると宅地造成でも削られなかつた丘陵地帯が広がっている。この丘陵地帯のひとつが中世に大内氏の被官によって築かれたという高倉寺城跡との伝承がある高倉山である。

調査内容

調査区を2箇所設定して機械掘削による調査を実施した。GLより-0.6mまでは近現代の耕作土(①～③)が存在するが、以下には中世のものに比定できる非常に良好な土層が保たれている。④～⑥は中世の層と考えられるが、埋蔵文化財は検出されない。



調査結果

耕作の痕跡と考えられる幾層かの中世の包含層④～⑥を検出し、現GL(地表面)からおよそ1m下に検出できた黄褐色粘質土の地山⑦面上には、耕作地(水田)における畦状の高まり(凸状)、もしくは水路等の溝状の窪み(凹状)などが見られた。今回の工事による破壊が及ばないものと判断し、確認調査の段階に留め置き、埋蔵文化財は埋没保存とした。

第4章　まとめ

久保城跡

久保城跡03-3区の調査では中世の層を検出したが、土器その他の遺物や建物などの遺構は検出しなかった。

現在久保城跡として設定している遺跡は径約350m程度で面積約10万m²と町内では比較的広大な範囲を有しているが、これまでの調査結果では遺跡の南辺部を東西に横断する町道五門久保小谷線を境界にするように、その南側の現在の久保の集落内の調査で中世期の集

落跡が検出されるのに対して、この町道の北側付近ではほとんど遺構が検出されない。五門久保小谷線より北側では、東学童保育所の建設に伴う98-1区の調査で飛鳥期から中世にかけて営まれていた集落に伴ったと見られる遺構が検出された。98-1区は町道五門久保小谷線より北側におよそ100mほど北側に入った場所であり、現在の久保の中心区域からは離れている。従って町道五門久保小谷線を境界とした北と南の区域では遺跡の性格に違いが存在するものと思える。今後の本遺跡内の調査データーが増えることによって、久保城跡の範囲を分割したり、或いは遺跡の南側に広がる久保集落の方向に新たな遺跡を設定する必要があると思われる。

久保A遺跡

久保A遺跡04-1区の調査では中世の層を検出したが、建物などの遺構は検出できなかった。本編でも触れたとおり、町道小谷穴釜線の新設工事に伴う久保A遺跡00-1区の調査では多数の柱穴状遺構を検出し、中世に集落が存在していたことが確認されたが、今回の調査ではその成果をさらに拡大するような資料は得られなかった。00-1区からは約100mほど南西の地点ではあるが、この04-1区付近は集落の範囲が及んでいなかったとも考えられる。集落は00-1区の東側に展開していたものとも想像される。

城ノ下遺跡

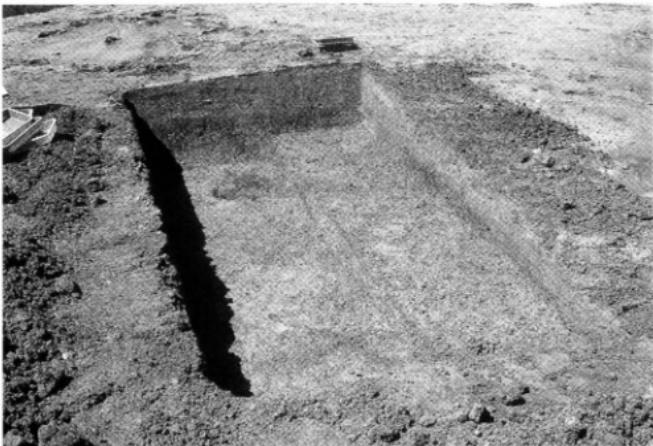
城ノ下遺跡04-1区の調査では中世の層を検出したのをはじめ、水田等の耕作に関する痕跡もしくは水路等の用途が考えられる溝状の遺構が存在することがわかった。本遺跡ではこれまで目立った埋蔵文化財が検出された事例がなかったが、周辺の久保A遺跡、久保城跡とほぼ同じ内容の埋蔵文化財が存在することが推測される。



久保城跡03-3区 調査区



久保城跡03-3区 調査区壁面



久保A遺跡04-1区 調査区



久保A遺跡04-1区 調査区壁面



城ノ下遺跡04-1区 調査区



城ノ下遺跡04-1区 調査区壁面

報告書抄録

ふりがな	くまとりちょういせきぐんはっくつちょうさがいようほうこくしょ						
書名	熊取町遺跡群発掘調査概要報告書						
巻次	XIX						
シリーズ名	熊取町埋蔵文化財調査報告						
シリーズ番号	第45集						
編著者名	前川淳						
編集機関	熊取町教育委員会						
所在地	〒590-0495 大阪府泉南郡熊取町野田一丁目1番1号						
発行年月日	西暦 2005年3月						
本件がな 所取遺跡	山口なる 所在地	コード 市町村：道路番号	北緯	東緯	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
くま と じ ろく あそ 久保城跡 03-31K	おおさか し せんなんぐん 大阪府泉南郡 くわのまちのじ わく 熊取町久保	27361	15	34° 23' 31"	135° 22' 18" 20040219 20040219	6.0	個人専用 住宅建設
くま と じ ろく あそ 久保A遺跡 04-1区	おおさか し せんなんぐん 大阪府泉南郡 くわのまちのじ わく 熊取町小谷南	27361	36	34° 23' 29"	135° 22' 30" 20040405 20040405	7.0	個人専用 住宅建設
くま の じ ら く せき 城ノ下遺跡 04-1区	おおさか し せんなんぐん 大阪府泉南郡 くわのまちのじ わく 熊取町小谷南	27361	7	34° 23' 24"	135° 22' 32" 20040826 20040826	6.0	個人専用 住宅建設
所取遺跡	種別	遺跡の主な時代	主な構造	主な遺物	特記事項		
久保城跡03-31K	城跡	鎌倉時代	なし	なし	解：鎌倉～室町時代		
久保A遺跡04-1区	散布地	鎌倉～江戸時代	なし	なし	解：鎌倉～室町時代		
城ノ下遺跡04-1区	城跡	室町時代	なし	なし	解：鎌倉～室町時代		

熊取町埋蔵文化財調査報告 第45集
熊取町遺跡群発掘調査概要報告書、XIX

発行日 平成17年3月
発行・編集 熊取町教育委員会
大阪府泉南郡熊取町野田一丁目1番1号
印刷 小笠原印刷（株）
大阪府泉佐野市上瓦屋646番地